

東洋哲学研究所の創立50年、ならびに出版活動の機軸『東洋学術研究』の50年——それは、祝賀の時であるとともに、歩みを振り返る好機でもあります。

東洋哲学研究所は、創立者・池田大作SGI会長が念願した「仏教が今なお人類を啓発する生きた力であることを証明する、研究と対話のセンターになってほしい」との目標を、これまで立派に実現してこられま

「仏教は人類を照らす力」と証明

ベッド・P・ナンダ

したのです。

宗教的・民族的紛争に引き裂かれている今日の世界において、貴研究所は人権、世界平和、環境その他の現代的課題に、倫理と仏教の観点から対応し、計り知れない貢献をしています。そのために貴研究所は、出版、講演会、セミナー、会議を通じて、他の大学や研究機関と協力しながら活発に宗教間対話を推進して

ます。また、

著名な学者の

受け入れや、

研究員を派遣

しての意見交

換、共同研究による交流を行っています。

法華経についての先駆的研究、そして論集「大乘仏教の挑戦」シリーズの毎年の発刊は、特筆すべき業績であり、人類に対する目覚ましい奉仕です。

明年の「50周年」に対し、私は貴研究所に最上の慶賀と祝福をお送りするものです。

(Ved P. Nanda / 世界法律家協会元会長、デンバー大学副学長)

した。そのユニークかつ画期的な貢献を通して、東洋哲学研究所は確かに、仏教はその普遍的な価値によってすべての人類を照らすことを実証しつつあります。まさに、これこそ池田博士が心に抱いた構想です。

私は幸いにも貴研究所に接し、その多面的な活動を知ることができました。そして私は研究所が要求する知的厳格さと、研究所が望むレベルの高さに深く感銘